



川のあるまち歩き

二宮町

二宮尊徳の足跡を見る

栃木県の南東部に位置する二宮町は、日本一のイチゴ生産量を誇ります。町名の由来となっているのは、二宮金次郎こと尊徳です。薪を背負って本を読む姿の銅像で有名ですが、その二宮尊徳と同町の関わりや、ゆかりの場所をその他の観光スポットとともに紹介しましょう。

■二宮尊徳と二宮町

江戸時代の天明7(1787)年、二宮金次郎(尊徳)は神奈川小田原市に生まれました。若くして両親を亡くし、伯父の家で懸命に働きながら、寸暇を惜しんで勉学に励み、一家を再興します。その後、小田原藩家老・服部家の建て直しにも尽力し、その功が認められて下野国桜町領(現・栃木県二宮町物井、横田、真岡市東沼)に赴任します。

荒れ果てた桜町を立て直すために、尊徳は農民に勤勉を説くとともに、私財をなげうって農機具などを買い与え、自ら先頭に立って道路や用水路、堰の改修を行います。その結果、桜町は豊かな村に生まれ変わりました。働き盛りの36歳から26年間を、尊徳は桜町で過ごし、「報徳仕法」の教えとともに、その名は全国に広がりました。現在、二宮町には尊徳ゆかりの史跡が数多く保存されているほか、「二宮神社」「二宮尊徳資料館」もあります。



桜町陣屋跡 (国指定史跡)

最初に尊徳が生活した屋敷を「桜町陣屋跡」として保存。桜町陣屋は、当時の代官役所で、明治4年まで使用されました。二宮町には、このほか尊徳が足を洗ったという「足洗い池」や遺髪を奉じた「二宮金次郎墓域」なども残されています。

二宮尊徳資料館展示室



二宮尊徳直筆の書状や陣笠・脚絆や脇差、小田原藩主より拝領した煙草盆と茶器など多数の展示品と資料があり、偉大な業績を残した尊徳の足跡を後世に伝えています。

桜町二宮神社



もともと稲荷・八幡の二社でしたが、明治38年の尊徳50年祭のときに二宮神社として創建。現在の拝殿は、昭和10年の80年祭のときに建立されました。毎年11月17日には、尊徳の霊を祀る祭典を行っています。

五行川の大前堰 (真岡市)



二宮町の隣、真岡市東郷にある大前堰。五行川の水を穴川用水に引き入れるための堰です。二宮尊徳は、赴任当初から何度となく堰の修繕・改良を行い、「二宮堰」とも呼ばれています。大前神社の東側にある堰で、サケの遡上・産卵が確認されたことも知られています。

〈その他の観光スポット〉

高田山専修寺 (国指定文化財)



山門から如来堂を望む。嘉禄元(1225)年に、親鸞が夢で明星天子のお告げを受け、建立したと伝えられています。如来堂の奥には、本尊の一光三尊佛が秘仏として安置されています。

三谷草庵



親鸞が常陸国・稲田(現・茨城県笠間市稲田)の西念寺に落ち着き、布教のためにこの地を訪れたときに、真岡城主から提供された草庵です。

長沼八幡宮



坂上田村麻呂により建立。神楽殿では、江戸時代より継承されている繁栄祈願の太々神楽(だいだいかぐら)が毎年、氏子によって奉納されます。



写真提供:二宮町・大前神社